

## 4 調査結果のまとめ

### (1) 尾張地域

#### ■ 降水量

2022年の降水量は、平年値を大きく下回る月が複数あったが、7月の降水量が平年値を大きく上回り、年間降水量としては平年値と同程度であった。(資料-6)

#### ■ 揚水量 (規制区域内)

最近の揚水量は、概ね横ばいに推移しており、2022年度は2021年度と比べ僅かに減少する結果であった。(図3-2)

#### ■ 地下水位

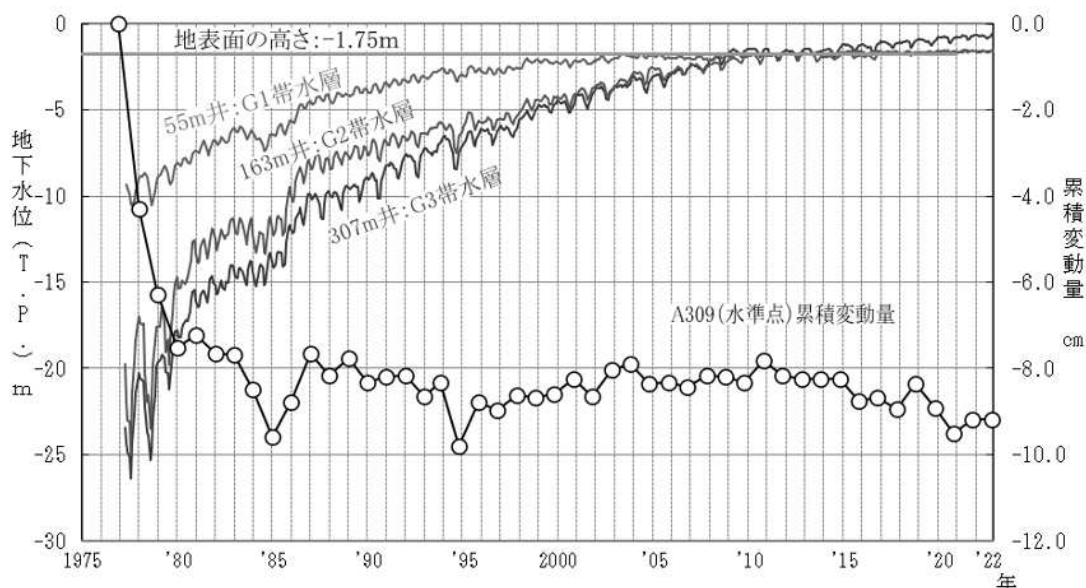
2022年の地盤沈下観測所等の地下水位は、2021年と比べ概ね同程度であった。

#### ■ 沈下量

2021年からの1年間で、1cm以上の沈下量を観測した水準点が観測されなかった。

地盤沈下と地下水位の関連について、県内の累積最大沈下点「A3-4」近くに位置する「十四山地盤沈下観測所」における地下水位と同観測所に設置している水準点「A309」の累積変動量を例として、図4-1に示す。地下水揚水規制実施以降、地下水位は徐々に上昇し、最近では地表面を超える水準にまで回復している。これに伴い、地盤変動量も大幅に鈍化し、最近では僅かな沈降・隆起を繰り返しながら推移している。

しかしながら、沈下しやすい軟弱な粘土層が厚く堆積している尾張西部地域では、最近5年間で数cmの沈下を観測している水準点があるなど、依然として沈下の傾向がみられるため、今後も注意深く観測していく必要がある。



注1) 地下水位は次年の目盛りまでの間を12分割して月平均水位を表示している。

注2) 累積変動量は、測量基準日(尾張・名古屋地域:11月1日)における水準測量結果から算出している。

注3) 地表面の高さは、A309の2022年水準測量結果である。

図4-1 十四山地盤沈下観測所における地下水位及び水準点「A309」累積変動量

(2) 知多地域

2016年から2020年までの4年間で1年あたり1cm以上の沈下を観測した水準点はなく、沈下域は生じなかった。

(3) 西三河地域

2019年から2021年までの2年間で1年あたり1cm以上の沈下を観測した水準点はなく、沈下域は生じなかった。

(4) 東三河地域

■ 降水量

前回調査(2018年)以降、2021年は比較的降水量が多かったが、全体的に概ね平均並みの降水量で推移している。

■ 地下水位

2022年の地盤沈下観測所等の地下水位は、2021年と比べ上昇傾向であった。

■ 沈下量

2018年から2022年までの4年間で1年あたり1cm以上の沈下を観測した水準点はなく、沈下域は生じなかった。

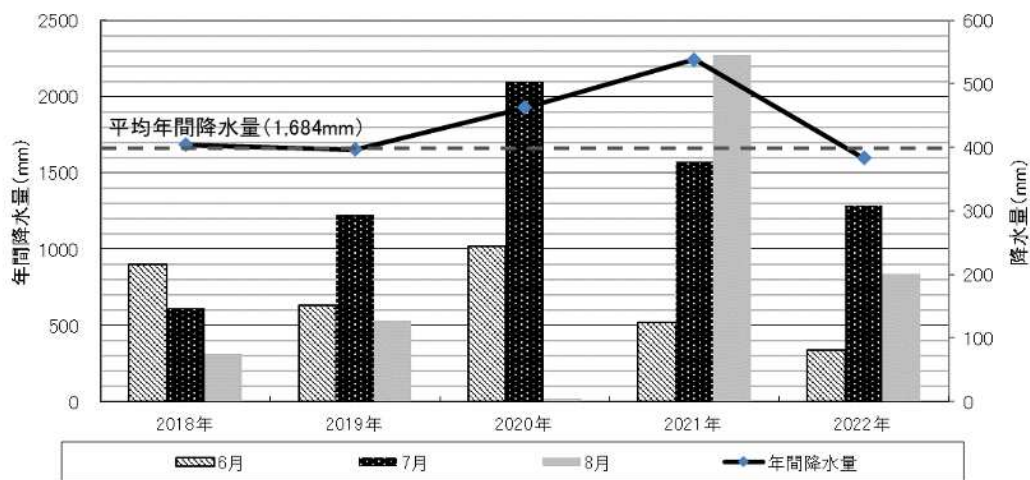


図4-2 豊橋地域気象観測所における降水量の経年変化